

令和2年度

徳島市津田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

夢や目標に向かい、未知の事象に対しても、自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 清水 勝	委員	校長 田村 浩康	教頭 矢部 淳
		教頭 原 裕則	1年主任 岩佐 真次
		2年主任 松田 幸	

校長

田村 浩康



【各校の取組状況の把握について】

相互参観授業のコメントや、学力向上アンケート・学校評価アンケートの結果から、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全般に、落ち着いた様子で授業が展開できており、真面目で意欲的な態度で授業を受ける生徒がほとんどである。 ●どの学年においても、家庭学習の習慣が定着していない生徒が多く、基礎的・基本的な知識の定着が不十分な生徒が少なからずいる。	・基本的生活習慣の定着に向け、あいさつができ、時間を守る生活を確立する。 ・与えられた課題には確実に取り組むことができ、基本的な学力が定着できている。	・朝学習の5分前スタート、チャイム着席を徹底させる。 ・各教室で「学習のめあて」を示し、ICTの活用や小テストの実施など多様な学習により、わかる授業を実施する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業で、グループ学習の実践が増え、自分の考えを説明したり文章にすることについて、少しずつ苦手意識が減少してきた。 ●受け身の姿勢で授業を受ける生徒が多く、持っている知識を活用し、表現する力が身に付いていない生徒もいる。	・目的に応じて、自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。 ・他の人に説明したり、発表するなど、主体的・対話的な学びができる。	・学習活動の中で、ペア学習・グループ活動などをさらに活用して、教え合い、記述し、説明・発表する場を多く設定する。 ・発問を工夫し、多くの生徒の発言を導くようにする。 ・相互参観授業を実施して、「主体的・対話的な授業づくり」を積極的に取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒がチャイム着席でき、学習準備も整い、前向きに学習に取り組むことができている。 ●苦手な問題や思考力を問う問題に、時間をかけ粘り強く取り組むことが苦手である。また、家庭学習の方法の習得、及び習慣化ができている生徒の割合が低い。	・将来の夢や目標の実現に向けて、家庭学習の仕方、習慣を定着させ、学び続けるモチベーションを持つ。	・課題の出し方を工夫し確実に提出できるように支援する。不十分な生徒には個別指導を行うとともに、家庭への啓発も行う。 ・家庭学習の時間が確保できるように、計画表を立てさせ結果を記録させる。 ・学校ホームページを活用し、家庭学習の仕方や学習教材を発信する。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

